

私たちは、地域住民の心と身体の健康をささえる病院として
「こころのふれあい」を大切に、安心と満足、信頼を得られる医療・保健・福祉を推進します。

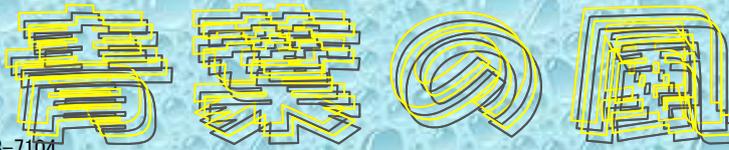
八幡青樹会病院 季刊広報誌

平成23年7月5日 発行

発行責任者 広報部会

地域連携室

連絡先 医療社会事業課 0748-33-7104



暑中お見舞い
申し上げます。

第29号

それでは今回も八幡青樹会病院の季刊広報誌「青葉の風」第29号をお届けいたします

～ 八幡青樹会病院 ニュース ～

☆作業療法室から作品のご紹介

短大時代に編んだ
編み物を思いだして
編んでみました。

『心なごむドイリー』

これは作業療法に参加されている方が作られた作品です。短大時代に編み物をしてきた経験があるようで、このドイリーの作品は3日間で完成されました。手先が器用で他にも10作品以上のレース編みの作品を作られています。

入院生活の中で、活動の場として毎日OTに参加されており、編み物をするをとても楽しみにされていました。この作品のタイトルを尋ねると、本の中から「心なごむドイリーにしようか」とご自身で選ばれました。きっと、この作品を編みながら、心和む時間を過ごされたのかな。と感じていました。

作業療法士 巖田 あずさ



☆花の日を迎えて

6月1日に近江兄弟社の高校3年生が当院に花束を届けて下さいました。これは毎年、花の日礼拝にちなんだ行事です。近江兄弟社学園の皆さん、美しい花をありがとうございました。

わたくし事にはなりますが、花といえば、母の日に小さな花を送った事がありました。その時には何も言わずに、母はただ花瓶に花を飾っただけであったのですが、数日後に、その花瓶の前で一人笑顔を見せる母の姿があったのです。普段は物静かで、自分たち兄弟の前ではあまり笑顔を見せなかった母が、花瓶の前で花を見て、笑顔をこぼしていたのです。後に母から話を聞くと「窓の外が晴れていたから嬉しくて」と言っていたのですが、完全に曇り空だったので、嘘だとすぐにわかりました。その時に、どんな小さな花でも気持ちを含めて贈ると、人の心を明るく咲かせる事が出来るのだと知りました。今後は看護師として患者様の心の花を少しでも多く咲かせていきたいと思ひます。



2病棟 看護師 宮師 和真



